

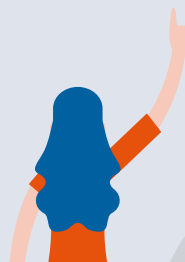
WE
LOVE

January 2024

地域医療支援学レター

vol.

46



CONTENTS

● 活動報告

● セミナー報告

リレートーク第46回

● 地域に学び、地域とともに歩む
保健所を目指して

島根県県央保健所
所長 杉谷 亮 先生



活動報告

令和5年9月27日(水)18:00～19:00

令和5年度ワークライフバランスセミナー

【テーマ】自分を大事に生きるためのヘルスリテラシー
 【講師】株式会社 ジョコネ。代表取締役 北奈央子 先生
 【場所】みらい棟4階ギャラクシー
 【参加者】54名(対面49名 web5名)

看護学と工学の分野で女性のヘルスリテラシーの研究に従事し、フェムテック分野での起業家でもある北奈央子先生をお迎えした。

ヘルスリテラシーとは健康情報入手・理解・評価し、そのうえで行動することによって実践される。つまり、自分自身を大切にすることにつながる行動である。

日本は残念ながらヘルスリテラシーの低い国であり、その背景にはヘルスケアシステム・教育・情報提供体制、日本文化が影響していると考えられている。特に女性については性教育の遅れや、行動へ移すことの羞恥心等による遅れを指摘された。ヘルスリテラシーに必要なこととして①女性も男性も知識を持つこと②必要な時に行動できる環境であること③人生を主体的に生きていくことを話された。

自分を大事にすることの大切さを改めて実感したセミナーであった。



令和5年10月6日(金)18:30～20:30

2023年度地域枠等全学年会

【場所】ニューウェルシティ出雲「銀河」の間
 【参加者】学生36名 来賓13名 教員4名

地域枠等特別選抜枠の学生達の全学年会が、関係機関の出席を仰ぎ開催された。6年生の代表者が実行委員長となり、国家試験勉強の合間を縫って講座と連携し準備を進め開催に至った。当日は6年生の有志が低学年の学生達を出迎え、久しぶりに交わされる挨拶には、儀礼的ではない同窓生ならではのザックパランな会話が心地よく耳に響いた。

初めに椎名病院長にご挨拶を頂き、健康福祉部の谷口医療統括監には乾杯のご発声を頂いた。続いて学年毎に自己紹介が行われた。大学外での開催は現6年生が2年次、5年生が1年次以来で、壇上に立つ姿は一回りも二回りも成長して見えまぶしく感じられた。

フリートークでは来賓を交えた輪が交差し、横の繋がりに縦の繋がりが加わり、終了間際までその輪は途切れることがなかった。同窓生の絆を更に深める時間にもなった。



令和5年11月7日(火)18:00～19:30

地域医療体験実習Ⅱ(フレキシブル実習)&ポストコロナ事業実習報告会

【実習期間】令和5年7月～10月
 【参加者】学生20名(1年4名 2年2名 3年2名 4年1名 5年1名 6年8名)
 教員4名 実習先指導医1名

地域医療体験実習Ⅱに参加した学生は22名、ポストコロナ事業実習は2名であった。地域医療体験実習Ⅱは、隠岐病院2回・隠岐島前病院2回・あさひ診療所・波佐診療所・邑智病院の5施設で受入れを頂き、ポストコロナ事業実習は、小豆島中央病院で受入れて頂いた。

報告会は波佐診療所の佐藤優子先生にもWebでご参加頂き、当講座の教授佐野の「リフレクションを行って実習が完結する」の挨拶から始まった。

学生達は学年を重ねる中で見える景色も違い、感想からも「自分の将来が想像でき、モチベーションが高まった」「地域住民は医療に何を求めているのか知る事が大事」「医療者は患者さんから学び成長する」「人と地域に触れる。直接対話がプライマリリサーチに繋がる」「医学生と地域病院との学習連携の強化と継続」等、その学びは多様で深かったことが伺えた。



令和5年9月28日(木)11:00～12:00、13:00～14:00

研究室配属講座内発表会

【場所】みらい棟2階 共通カンファレンスⅠ
 【配属期間】8月29日(火)～9月29日(金)
 【参加者】学生6名 教員3名

研究室配属で来講した医学科3年生6名の“学びの成果”を報告する、講座内発表会を行った。その日は医学教育分野別評価と重なり、学生達の視線は緊張で張り詰め、部屋全体にもその空気が漂っていた。

しかし、そこは地域医療に関心を持ち配属を希望してきた学生達である。貪欲に取り組んだ学生達の学びは確かなもので、そのプレッシャーをも撥ね退けた素晴らしいプレゼンテーションを披露してくれた。

学生達のテーマは「①地域医療と地域包括ケアシステム②医師と患者の繋ぎ手～地域医療実習を通して実感したこと～③地域医療の担い手に必要な能力と心構え④地域医療と地域包括ケア⑤島根での地域医療⑥地域医療における医療の需要と供給」であった。各自のプレゼン後は他学生や来講された先生方の質問を対話形式で受け、其々の思考を更に深化させる時間となった。



令和5年10月8日(日)13:30～17:30

第3回しまね総合診療の集い(総合診療医ブラッシュアップセミナー)

【場所】みらい棟4階 ギャラクシー
 【参加者】26名(対面23名 web3名)

筑波大学の前野哲博先生に「医療者に求められるノンテクニカルスキル」をテーマとしてご講義をいただいた。

第1部の「問題解決のための技法」では、問題解決の基本ステップや、ロジカル思考を使用したアプローチ方法をグループワークで行い、医療以外の事例(ラーメン屋さんを繁盛させるための解決策)を通して勉強した。

第2部の「コンフリクトマネジメント」では自己主張性を縦軸、協調性を横軸として、協働・説得・順応・妥協・回避という5つの対応モードがあることを学んだ。自分に合った対応モードに加えて普段使用しない対応モードについてもグループワークを通して学ぶことが出来た。

ノンテクニカルスキルはリーダーシップやコミュニケーションスキルなどにより組織力を向上させることが可能であり、これからの医療に必須のスキルであると感じた。



令和5年11月17日(金)13:00～17:00

文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」多地域共創型医学教育シンポジウム in 島根

【場所】島根大学医学部臨床大講堂
 【参加者】225名(対面160名【内、島根大学医学生 120名】 web65名)

はじめに主幹校である岡山大学の香田特任准教授から、4大学(岡山、島根、香川、鳥取)の医学部が連携するこのプロジェクトについて事業概要説明が行われた。シンポジウムは2部構成で、第1部は特別講演として隠岐島前病院参与・しまね総合診療センター長の白石先生に「地域医療めっちゃおもしろいん!」と題してご講演を頂いた。

第2部は本事業の事業成果報告として、岡山大学の香田特任准教授、香川大学の駒澤特命教授、鳥取大学の中野特命教授、当講座教授の佐野より事業進捗の報告が行われた。その後、島根大学医学部医学科4年生の山崎祐次郎さん、岡山大学医学部医学科2年生實延正喜さん、橘高みなみさんから実践報告があった。

シンポジウムは活発な意見交換が行われた。最後に本事業の実施責任者である岡山大学豊岡医学部長から閉会の辞を頂き、盛況のうちに幕を閉じた。



令和5年11月3日(金)、4日(土)

金城町「さざんか祭り」に参加して!!

医学科3年 新城 圭史郎

11月3日から4日、地域医療研究会は浜田市金城地区の産業祭「さざんか祭り」に参加しました。今年度は「アルコール依存症」をテーマに啓発運動を目的とした健康教室を出展しました。

非常にセンシティブなテーマで、来場者が立ち入るハードルが上がってしまうことが企画段階から懸念されていました。そこで、来場者が気軽に立ち寄れるカフェスペースを併設することにしました。そこには「合同会社 薬雲」が開発したハーブティーの試飲スペースを設け、ボードゲームカフェ「7th DICE」提供のボードゲームと金城図書館提供の図書を置き、来場者の憩いの場としました。

カフェスペースの来場者で興味を示してくれた方には、血圧・血管年齢測定、更にアルコール依存症のスクリーニングテストを受けて頂き、続いて健康相談ブースで測定結果について説明を受けるという導線を作りました。来場者は1日目が112人、2日目が119人で延べ231人でした。

地域医療研究会からは7人(1年2人、2年2人、3年3人)が参加しました。特に低学年にとっては地域住民の方と直接交流できる貴重な機会となり、将来医師として必要な様々な事柄を学ぶことができました。

出展に当っては、地医研OBの阿部先生、佐藤先生をはじめとした波佐診療所スタッフ、松本先生をはじめとした西川病院スタッフ、合同会社薬雲代表の片岡先生、大田市立病院総合診療専攻医の島田先生を含め、様々な方に変なお世話になりました。この場をかりてお礼申し上げます。



Career Seminar



どうする外科医!どうなる外科医!～地方出身の一外科医人生～

【実施日】令和5年9月20日(水)12:15～12:45
 【講師】島根大学医学部 消化器・総合外科学講座 教授 日高匡章 先生
 【参加者】33名

概 要

タイトルには大河ワードを秘め、お話は外科医としてのキャリアにプライベートとドラマティックであった。

副題の“地方出身の一外科医人生”から、先生は「地方に行っても何ら問題ない。むしろいろいろな経験ができた。自分の中に確かな根拠がある」と確信を持って話された。この続きは直接お伺いすれば、その根拠の深掘りと共に未来が開けそうな予感を覚えた。

また、フランス・イタリア留学の経験から両国の移植医療の現状をお話し頂き、異文化の理解を教示頂いた。更にはプライベートをしくじり先生的に「覆水盆に返らず」とオープンに語られた。働き方改革にも通じる教訓について、「どんなに忙しくても、パートナーと会話すること」と回避法を伝えられた。

最後に医療の真理等、自らに問いかける姿勢を大事にしてほしいと伝えられ「ぜひ外科医に!!」と熱いコールを贈られた。



キャリアは必要!?
 国際学会で15回の特別講演を行った形成外科医の本音と、大手美容外科医への本音
 【実施日】令和5年10月31日(火)12:15～12:45
 【講師】島根大学医学部 形成外科 准教授・診療科長 林田 健志 先生 (6年生 弥重さん、大野さん、内藤さん)
 【参加者】53名

概 要

今回は前半に6年生3名の学生がプレゼンを行い、後半に先生からのお話があった。学生からはそれぞれの学生生活を振り返り、これからの展望が紹介された。

林田先生は悩んでいる患者さんの役に立ちたいと形成外科に進まれた。日々、診療・手術に励まれる中、治療困難な症例と出会い、自分で調べてエビデンスを作ろうと思い研究を開始された。

国際学会での報告を重ねられ、日本では得られない沢山の刺激を受けられた。海外で知見を広めることの重要性をお話し頂いた。

キャリアに関しては短期的な目標と長期的な目標を設定し、軸足をどこに置くかを意識し、格好いい大人になってほしいと話された。また、将来的には母校の島根大学に帰ってきて貢献してほしいことを伝えられた。

学生たちから愛されている林田先生のお人柄がよく伝わるセミナーであった。

私の医師としてのキャリア
臨床医、研究医、産業医の経験を通して

【実施日】令和5年11月29日(水)12:15～12:45
 【講師】島根大学医学部内科学講座 腎臓内科 教授 神田 武志 先生
 【参加者】21名

概 要

先生は学生時代を含め、臨床・研究・産業医の経験を通して「勉強だけでなく色々な経験を、人と人とのつながりを大事にほしい」とメッセージを贈られた。先生は学生時代、ラグビーを通して「生涯の仲間」に出会えたそうである。労苦を共にした仲間とは今も繋がり、そこから生み出される活動が新たな繋がりに発展していると話し頂いた。

また、内科学の今後の課題として、AIでは対応できない医師のコミュニケーション能力が重要である事や複数の疾病を抱えた高齢者が増加し慢性期医療の充実が求められ、総合力と専門力が必要であると話された。

最後に島根大学内科チームと腎臓センター設立に向けてのIKRAのメンバーがスライドで紹介された。「島根県には先輩・同期・後輩等の仲間がいる。進路はSNSを信用せず、信頼できる人に相談をするように」と2つ目のメッセージを贈られた。

セミナー報告
SEMINAR REPORT

地域医療セミナー



家庭医としてのキャリアの魅力

【実施日】令和5年10月13日(金)18:00～19:00

【講師】亀田ファミリークリニック館山 院長 岡田 唯男 先生

【参加者】20名

概 要

先生は米国の家庭医と指導医の資格を持ち、家庭診療専門医として多くの大学で教育に携わられている。

先生は学生時代を振り返り「部活動三昧の生活を送った」と話された。そんな学生時代、先生は“ブラックジャック”のように何でも診れる医師が少ないことに気づかれ、6年次に家庭医の存在を知ったそうである。当時医師免許を取得した学生は殆どが大学に残る時代に、卒業後沖縄米軍海軍病院での勤務を経て、米国に留学され上記の資格を取得された。

帰国後は、日本で家庭医の資格を取得できる環境整備に尽力された。先生は家庭医について、「生活医療である一方で、医学領域の中では最先端の学術基盤を持ち、奥が深いことが魅力である」と熱弁された。

先生の「人間らしい関係性を含んだ医療を大切にしている」という言葉は、参加した学生達に深く印象づけられたと思われる。





島根県県央保健所

所長

杉谷 亮 先生

県央保健所が所在する大田医療圏(大田市、邑智郡)は、県の中央部に位置し、北は日本海、南は中国山地県境で広島県と接しており、豊かな自然や歴史に彩られた地域です。私は、幼少期の数年間を川本町で過ごしたこともあり、当地に親しみを感じながら日々勤務しています。

保健所というと、一般的には食中毒、動物対応のイメージが強いかもしれませんが、また、近年は新型コロナ対応に忙殺されていたイメージをお持ちの方も多いと思います。しかし、保健所は住民の健康、生活衛生に関わる非常に多岐にわたる分野の業務を所掌しており、実は、飲食店や理・美容所の許認可、河川や海域の水質調査等の役割も担っています。

現在、保健所で力を入れていることの一つに地域包括ケアシステムの構築支援があります。地域包括ケアを実現するためには、多機関・多職種が

健康なまちづくりの視点で知恵を出し合うことが重要であり、公衆衛生従事者にはそのコーディネートの役割が求められています。当県では、社会医学系専門医研修プログラムを設けており、県内で2名(令和5年11月末現在)が専攻医として勤務しています。公衆衛生に興味をお持ちの皆さん、是非一緒に歩んでみませんか。



島根県県央保健所

〒694-0041 島根県大田市長久町長久ハ7-1
TEL(0854)-84-9800 FAX(0854)-84-9819

交流会が開催されました

雲南市・奥出雲町
地域医療交流会

令和5年11月2日(木)
出席者33名(学生8名)

益田市市長と益田市出身
医学生・医師との
意見交換会

令和5年11月22日(水)
出席者12名(学生4名)

浜田の医学生を
応援する会

令和5年11月10日(金)
出席者23名(学生6名)

隠岐出身者
(島根大学医学部地域枠)
との意見交換会

令和5年12月4日(月)
出席者10名(学生1名)



今後の予定

Career Seminar

令和6年1月24日(水)12:15~12:45

講師:橋本 龍也 先生
島根大学医学部附属病院 緩和ケアセンター センター長

令和6年2月予定

講師:門脇 俊 先生
島根大学医学部整形外科 助教

地域医療セミナー

令和6年1月26日(金)18:00~19:00

講師:軍神 正隆 先生
国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 救急科統括部長

令和6年2月予定

講師:北 和也 先生
やわらぎクリニック 院長(奈良県)

感染症セミナー

令和6年1月22日(金)18:00~19:00

講師:青木 真 先生

第14回中四国地域医療フォーラム

令和6年2月9日(金)、10日(土)

担当大学:鳥取大学医学部地域医療学講座

えんネット交流会

令和6年2月21日(水)18:00~19:00

令和5年度第5回しまね総合診療の集い

令和6年2月予定

地域医療体験実習Ⅰ(春季地域医療実習)

令和6年3月4日(月)~8日(金)

あけましておめでとうございます。

今年も島根大学医学部地域医療支援学講座を宜しくお願い申し上げます。

レターのキーカラーは「雪色(せつしょく)」です。この季節ならではの僅かに青みがかった独特の色を表現した色です。雪白(せっぱく)とも呼ばれ、新年(新しい・始まり=白)にふさわしい色です。

2月3・4日は第118回医師国家試験です。学生達は医師としてのスタートを切るために、今この時を一生懸命国家試験勉強に頑張っています。3月15日、桜色の吉報が学生達に届くことを願います!!

